

# 千葉県教育委員会指定「豊かな人間関係づくり推進事業」

## 「ピア・サポート」プログラム実践報告

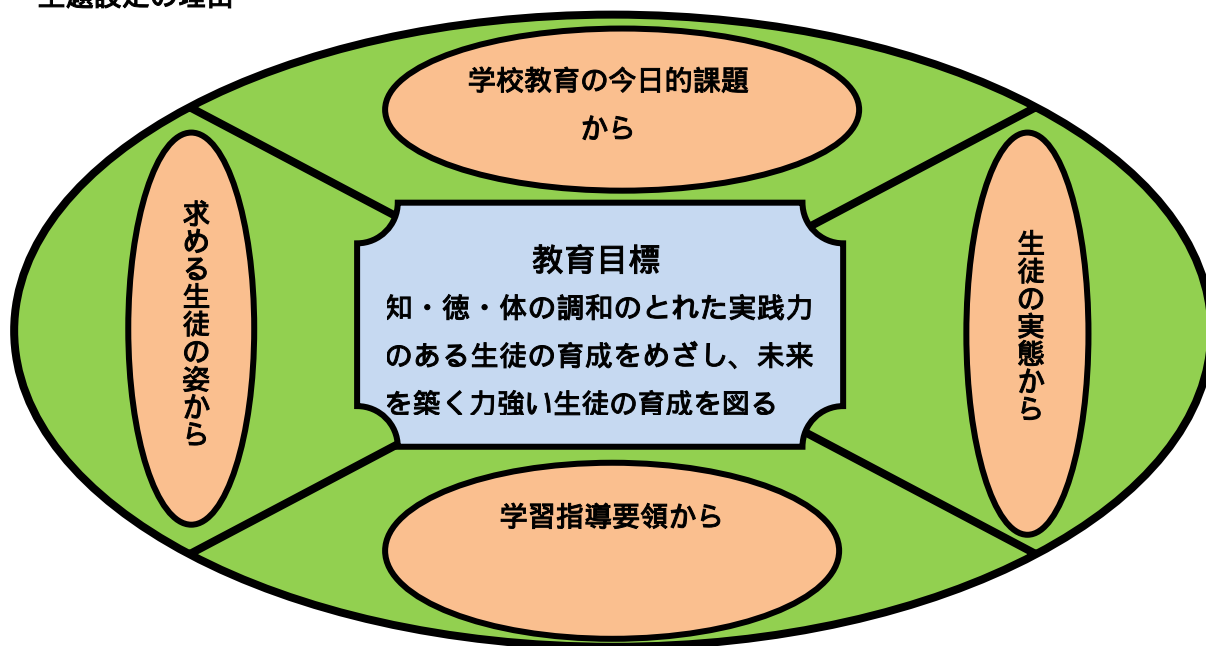
白井市立大山口中学校

### 3年間の取り組み

#### 研究主題

- 18年度「心豊かな集団づくりをめざして（ピア・サポートを中心に）」
- 19年度「生徒一人一人にとって居心地の良い学級（学年）集団づくり」  
～ピア・サポートを中心に～
- 20年度「人間関係づくりの指導方法と生徒への般化・維持活動はどうあるべきか」  
～生徒の変容が明確に表現できる評価方法はどうあるべきか～

### 主題設定の理由



#### 学校教育目標から

「知・徳・体の調和のとれた実践力のある生徒の育成をめざし、未来を築く力強い生徒の育成を図る」のもと、「育成」を個々の生徒の育成のみならず、集団づくり、人間関係づくりともとらえ、その指導方法の確立が必要とされる。

#### 学校教育の今日的課題から

社会が急激に変化し価値観が多様化する中、個性を重視する教育が浸透する一方で、こども社会における集団性の未成熟が問題視されている。集団づくりのスキルを身につけることが有用と考えられる。

### 学習指導要領から

大山口中学校では、総合的な学習の時間で「ピア・サポート」の学習を行ってきた。新学習指導要領において、指導計画の作成面で「他者や社会とのかかわりに関することの視点を踏まえること」、また内容の取扱いについて「他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする」と掲げられている。

### めざす生徒像から

学校教育目標を受けて、めざす生徒像の第1に「自ら進んで学習する生徒」、第2に「豊かな心を持つ生徒」とある。自分を知り、仲間を知り、互いに支え合い、助け合うことにより「思いやりの共同体」を築くことが、めざす生徒像の実現につながると考える。

### 生徒の実態から

生徒は明るく活発で、全体としては規範意識も高い。学校行事や部活動にも意欲的で、学年が上がるごとに授業にも落ち着いて臨んでいる。しかし、個々には家庭環境を含め、問題を抱えている生徒も少なくない。自分の気持ちを相手に伝えることが上手くできない生徒、自分本意の行動が目立ち周囲とのコミュニケーションがとれない生徒もいる。対人関係づくりについて学ぶことにより、着実に集団として成長してきている。

### 研究仮説

授業で学んだピア・サポートのスキルを、般化・維持活動を通して生徒の活動に定着させることにより、自他を認め合える心豊かな集団の構築ができるであろう。

#### 18年度

- ・プログラム開発
- ・教師による指導技術の研修

#### 19年度

- ・生徒一人一人が学び方（考え方、話し方、聞き方）を学ぶ

#### 20年度

- ・般化、維持活動の工夫
- ・教育課程への位置づけ
- ・補助者の指導方法の工夫

## 研究の内容

### 18年度

研究の初年度ということで、手探りの中での取り組みであった。何をどこから始めて良いものかも分からなかったが、白井市教育センター室より、年間のピア・サポート授業計画が提示され、それをもとに中学校側でも始動した。平成18年度の研究内容の柱は次の3点であった。

ピア・サポートの授業プログラムの開発へ向けて、なかよしキッズステーション（NKS）へのデータの提供。

研究推進へ向けての、教職員の意識改革および指導技術の習得。

県の推進校として、「豊かな人間関係づくり」の啓発のための授業公開。

### プログラム開発へのデータ提供

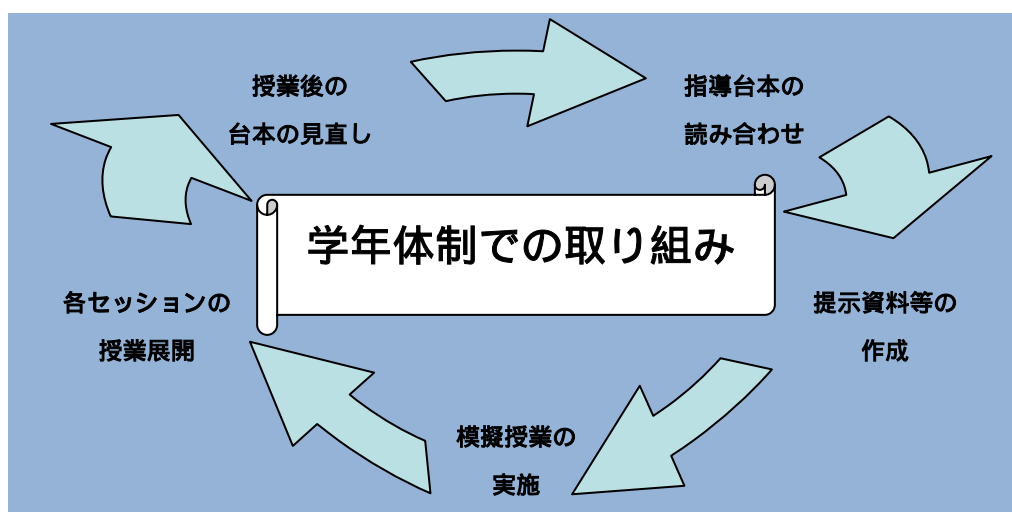
大山口中学校は、ピア・サポートの授業プログラムの研究開発の協力校として県の指定を受けた。すなわち、大山口中としての独自研究を行うのではなく、千葉県教育の施策の一つである「豊かな人間関係づくり推進事業」を支える使命を受けたことになる。具体的な協力事項として、次の3点があげられる。

生徒の実態調査（査定）等を通しての、サンプルの提供。（NKSの資料参照）

ピア・サポートの指導台本づくりへの授業研究。

指導者としての指導方法（技術）の改良へ向けての授業研究。

特に、上記の 、 の成果をあげるために、ピア・サポートの各セッションの授業は下図で示すようなサイクルで実践された。



### 教職員の意識改革および指導技術の習得

新しい研究を始める際には、戸惑いや抵抗は当然ある。大山口中でも、研究開始当初はピア・サポートに対する否定的な声が教職員から聞こえた。

- ・ 道徳の授業の充実で、人間関係は構築できる。ピア・サポートの必要性を感じない。
- ・ 台本読み合わせや、資料準備の時間の確保が、放課後に部活動を行う中学校では無理。
- ・ 指導台本の通りに行う展開では、教師と生徒の実態に即した授業にならない。
- ・ 効果があるかわからないプログラムのために割く時間などない。

一方で、研究のスタートしたころは、けっして多数派ではなかったが、研究の推進に前向きな声も聞かれた。

- ・ 縁があって指定を受けたからには、この機会をチャンスと捉えて頑張ってみよう。
- ・ 先進校の取り組みで一定の成果があるというのだから、やってみる価値はありそうだ。
- ・ 新しいことは、やることに意味がある。結果は後からついてくる。
- ・ 人間関係がうまくつukれない子どもが急増していることは事実。何か手をうたなければ。

そして、研究が進むにつれて、職員の意識に変容が見え始めた。その要因としては次の4点があげられる。

- 生徒がピア・サポートの授業に喜んで取り組んでいる。
- 研究主任、学年のピア担当と学年スタッフのチームワークが良くなり、そのことは他の仕事を進める上でも波及の効果がある。
- NKSのスタッフの熱意に応えたいと思うようになった。
- ピア・サポートの指導のスキルが、教科の授業や、日常の生徒指導の場面でも活かすことができる。

### 啓発のための授業展開

本来、平成18年度はプログラム開発が目的であったので、その協力のための授業を公開する必要はなかった。しかし、県や市から予算をいただいでの研究でもあり、県内唯一の実践校としての責任から、各セッションの授業を広く公開することとした。なお、公開にあたっては、次の点に注意した。

- 公開は授業のみで、原則として授業後の研究協議は行わない。
- コの字型隊形はピア・サポート導入以前から大山口中で取り組んできたが、ピアの授業の全体シェアリング、小集団活動にも適していると判断し、継続する。
- ピア・サポートの公開にともない、自習学級が出ないように時間割を工夫する。
- 駐車場係、受付などの係は、PTAの協力を得る。

## 19年度

プログラム開発への協力という使命を終え、研究2年目は、ピア・サポートに関して大山口中独自の方向性を示すこととなった。校内のピア・サポート部会を中心に1年目の研究の成果と課題を次のようにまとめ、2年目の研究の指針とした。



ピア・サポートでは必ず小集団での学習が  
取り入れられている

成果としては、まず「千葉県版 豊かな人間関係作り推進プログラム 第1版」の完成をみたことである。この第1版のDVDを使い、ピア・サポートの研究実践は、県内各公立小中学校へと広まっていくこととなった。次に教師サイドにおける成果として、校内に研究体制が確立されたこと、また、ピア・サポートの授業スキルが日常の教科や特別活動、道徳といった他の授業の中に自然と活かされてきたことがあげられる。特に、教師が黒板に提示する資料には、工夫が多く見られるようになり、とかく単調になりがちだった中学校の黒板に理解を促進する系統性と、視覚に訴える楽しさが加わった。生徒サイドの成果としては、授

業を多くの参観者に見られていても、平常のままの活動ができるようになった。しかし、その生徒の実態の中に新たな課題が見えてきた。ピア・サポートの授業の中では、学習の成果とも思われる発言や行動が確認できるものの、それが日常生活には十分に波及してこない、すなわち般化されていないということである。これらを踏まえ、平成19年度の研究内容の柱を次の3点とした。

**般化・維持への活動を工夫、充実させる。**

**体系的指導プログラム（第1版）による授業実践を踏まえ、プログラムの改良にあたる。**

**引き続き県の推進校として、「豊かな人間関係づくり」の啓発活動を行う。**

### 般化・維持活動の充実

般化・維持の充実に次の2点から取り組むこととする。

各セッションの前後に「チャレンジプリント」を使っての学習を入れ、1つのセッションを3時間の展開とする。

校内の掲示物の充実を図り、日常的に意識を高める。



事前学習・本セッション・事後学習と各セッション  
総合を3時間使った展開とした





会議室前廊下

全学年のすべてのセッションを振り返る掲示物

### プログラムの改良

「千葉県版 豊かな人間関係作り推進プログラム（体系的指導プログラム） 第1版」の改訂の取り組みは、千葉県の事業としてではなく、教育臨床研究機構の自主的な活動として行われた。この改訂作業のためのデータ収集、および改訂版作成への学校現場サイドの意見発表の場として、NKSの牧野昌美先生のご指導の下、各セッションごとに検討会議を行った。その成果は「体系的指導プログラム 第2版」となって県内すべての公立小中学校に配布された。

### 啓発活動の継続

2年目の授業公開は、より見せることに主眼を置いた展開とした。指導者の説明は短く、生徒の活動場面を多くするように時間配分を工夫した。また、模擬授業をもとに板書計画を見直した。黒板掲示の資料は、色、形、文字の大きさ、イラスト等に何度も変更を加えながら改良を重ねた。県内各小中学校でピア・サポートの授業が本格化する中で、特に一学期には公開授業の参観者も急増し、来校者が50名を超える日が続いた。また、授業終了後には研究主任が、参加者からの質問等に答える時間を設定した。



教室のピア・コーナー

第1～第4のセッション振り返って



提示資料は生徒の目線から作成を行った

校外への啓発活動も積極的に行った。詳しくは後に示すことになるが、3年間の研究活動期間に、各種研修会等への講師として本校職員を派遣した回数が13回、研究団体等が本校を訪れて研修会を開催した回数が9回にのぼった。

## 20年度

研究のまとめの年は、活動の内容も多岐にわたった。2年間の研究成果と外部機関、他校との連携の中から必要と思われる次の5点を中心に研究計画を推進してきた。

生徒の変容が明確に表現できる評価方法の開発。

般化・維持を強めるための、ピア・サポートと学校行事等との関連性の検証。

指導台本から離れた、指導者の個性を発揮した授業展開。

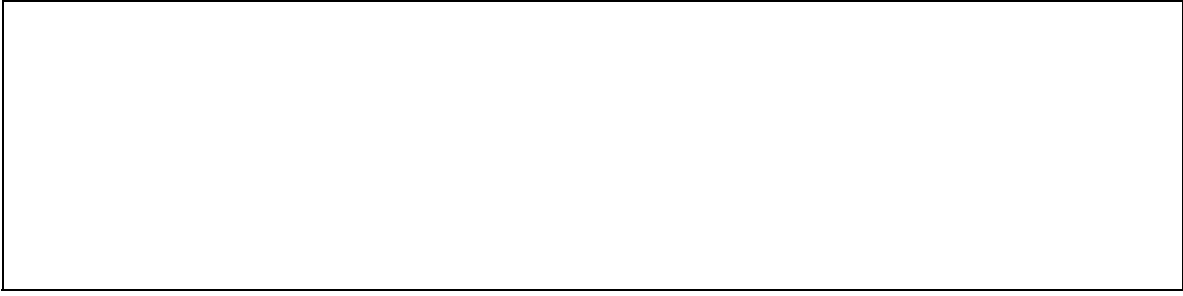
補助者の授業への積極的な関わり方の工夫。

研究のまとめ。

## ピア・サポート研究におけるアンケート協力をお願い

学年		(該当学年を で囲む)	3年	2年	1年	
次の1～10の質問項目について、ご家庭でのお子さまのようすから、もっともあてはまると思われる番号を例にならって、黒く塗りつぶして下さい。						
			とてもその思い	まあまあその思い	あまりその思わない	まったくその思わない
例	うちの子は、毎日元気に学校に通っている。					
1	うちの子は、学校に行くことを楽しみにしている。					
2	うちの子は、親に言われなくても家の手伝いをする。					
3	うちの子は、仲の良い友だちに恵まれている。					
4	うちの子は、学校での出来事を家でよく話す。					
5	うちの子は、自分の行動を自分でコントロールしている。					
6	うちの子は、小さな事でも目標を決めて行動している。					
7	うちの子は、物事を決めるとき多面的、多角的に考えている。					
8	うちの子は、相手の気持ちを考えて話をしている。					
9	うちの子は、自分で決めたことに対して責任をもって行動している。					
10	うちの子は、自分自身のことを大切にしている。					

お子さまのご家庭でのようすで、何か最近お気づきの点（こんなところが良くなった。こんな面が心配だ。等）がありましたら、お書き下さい。



ご協力ありがとうございました。



## 評価方法の開発

評価の方法として、次の3つの方法を考え実施した。

生徒自身の自己評価（NK Sの発表による）

保護者による評価（アンケート方式で年間3回実施）

感想記入による評価（生徒、教職員、保護者、外部関係者）

生徒自身の自己評価（NK Sの調査を参照）

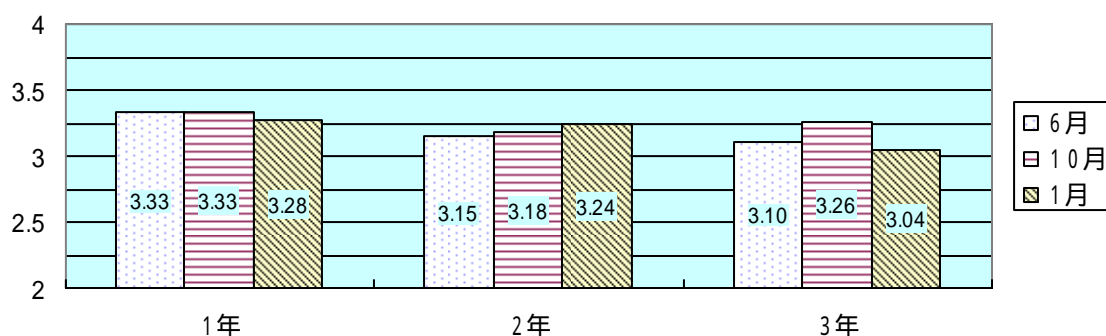
保護者による評価

前述のアンケート用紙を使って、第1セッション学習前の6月、第4セッション学習後の10月、2ヶ月経過後の冬休み期間中と、3回にわたって評価に協力をいただいた。6月の第1回目の評価結果がベースとなり、10月の第2回目の結果との比較によって、ピア・サポートの学習による生徒の変容について考察しようと考えた。また、冬休み期間中の第3回目の結果との比較によって、成果がどの程度維持されているかを考察しようと考えた。

しかし、このデータ結果には問題点が2つあることをあらかじめ明記しておきたい。一つ目は、質問項目がピア・サポートの学習の成果を問うに適切な内容になっているかということである。NK Sの牧野昌美先生の助言をいただいた上で、校内のピア・サポート部会で検討は重ねた質問ではあるが、学術的な視点からは不安は残る。二つ目は、回答が返ってきたサンプル数の少なさである。6月の調査では、全生徒数の7～8割の回答が得られたが、2回目、3回目の調査では5割程度しか回収できなかった。3年生に至っては3回目の回収率は3割程度に止まった。無記名での回答であったため、3回の調査で共通の家庭からの返答であったかも特定はできず、査定誤差の問題とともに、データの信頼性は高いとは言えないかもしれないが、次に集計の結果と簡単な考察について示したいと思う。なお、データの数値は4段階評価の平均値を算出したものである。数値が大きいほどプラス方向に、数値が小さいほどマイナス方向に傾倒していると理解できる。

### 1 うちの子は、学校に行くことを楽しみにしている。

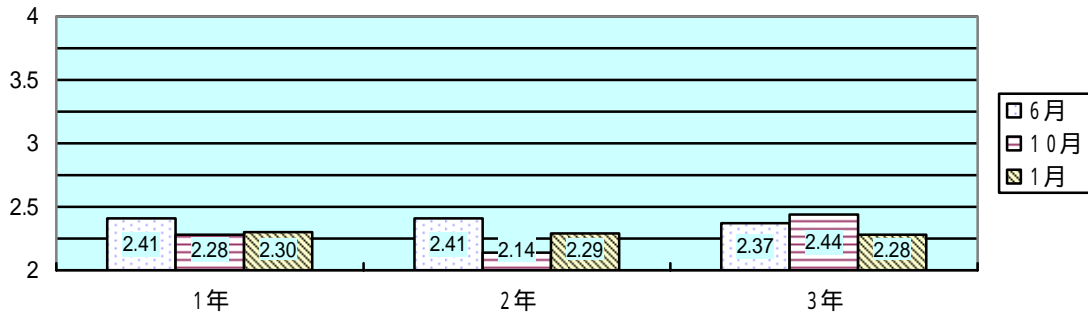
保護者に「子どもをよく見てもらう、および子どもの生活のようすを想起してもらう」ための、アンケートの導入的な質問。



【考察】 すべての結果数値が3点を超えている。大山口中の生徒たちはおおむね学校生活を楽しくしていると考えられる。3年生で1月に数値が下がっているのは、高校入試が間近になり不安が高まっている可能性も考えられる。

## 2 うちの子は、親に言われなくても家の手伝いをする。

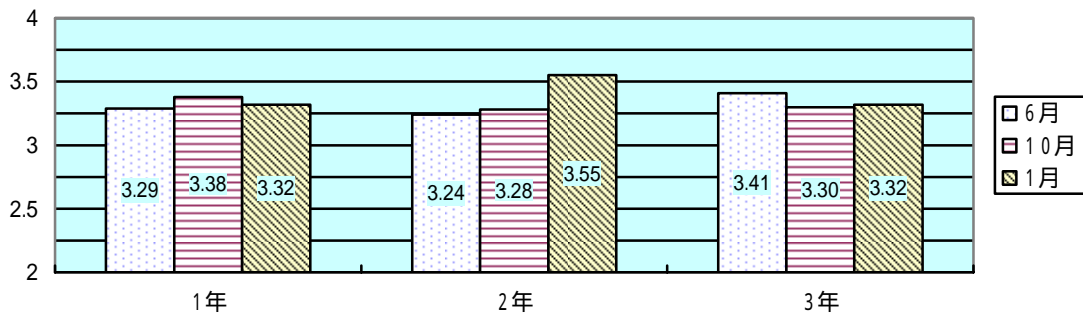
「子どものように思い出してもらおう」上で、保護者にとって身近な生活習慣を扱った、これもアンケートの導入的な質問。



【考察】 中間を2.5と考えれば、全データがそれを下回っている。生徒の日常の生活のようすや家庭からの情報から得られている内容と、今回の調査結果の数値はおおむね一致している。

## 3 うちの子は、仲の良い友だちに恵まれている。

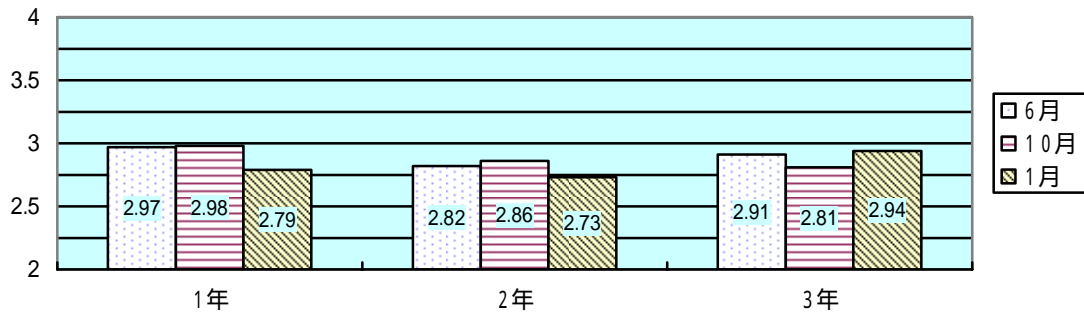
導入的な意味合いに加え、ピア・サポートの基本理念の一つである「仲間」についての意識を確認するための質問。



【考察】 一年生は、中学校に入学し、学校生活を通じて着実に交友の輪を広げているようだ。二年生が1月に急増したのは、12月の立春式を始め、部活動や生徒会活動等で人間関係を深める機会が多くなったことにも関係がありそうだ。全体に3点を上回っており、友人関係では良好な環境の中で生徒たちは生活していると考えられる。

#### 4 うちの子は、学校の出来事を家でよく話す。

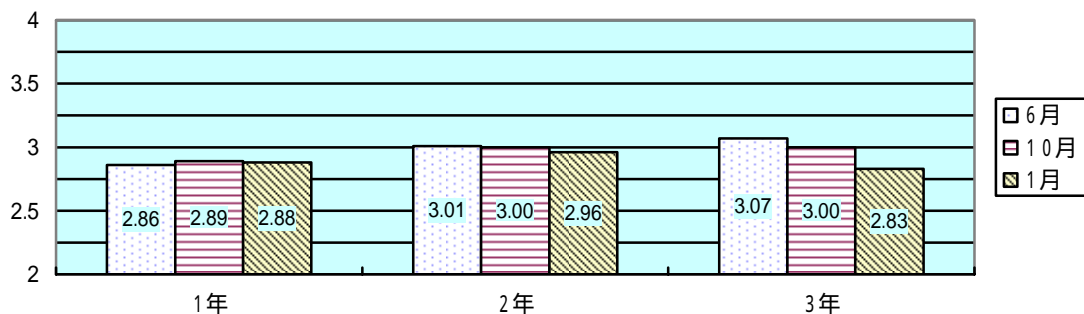
保護者と子どもの信頼関係および、子どもの学校生活の躍動・変化(充実度あるいは諸問題)について確認するための質問。



【考察】 親と子の信頼関係が高ければ、学校の出来事での会話が多くなると考えられる。また、子ども自身が学校での活躍度合いが増せば、学校でのようすを親に話すであろうと考えられる。一方で、不安や悩みが多い場合も親との会話は増える可能性がある。一定数の回答が得られた1年生、2年生で1月の数値が下がっているのが気になる結果である。3年生が1月に上昇したのは、入試に向けての会話が増えたのだろうか。

#### 5 うちの子は、自分の行動を自分でコントロールしている。

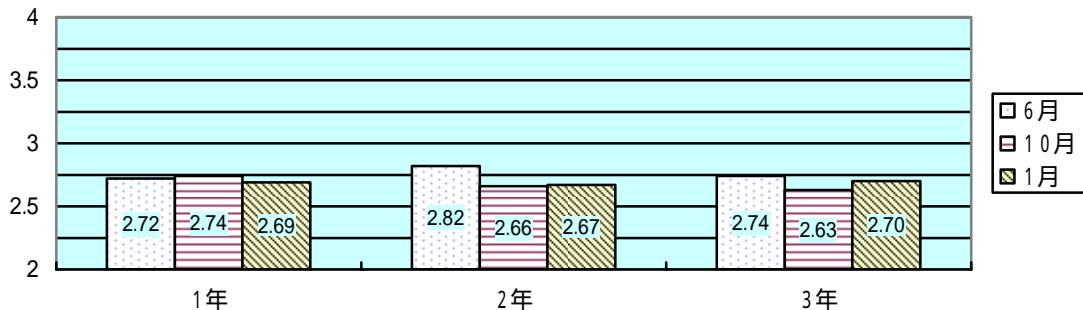
主に、中学2年生【セルフ・コントロール】「自分と向き合い、自分を管理できるようになるう！」の学習に関する質問。



【考察】 ピア・サポートの目標項目と関連性のある質問であるが、この数値結果を見る限り、ピア・サポートの学習による変容の有意性は特には認められない。ただ、今時の中学生にして「自分をコントロール」できる数値が平均で3点あたりというのは、すでにある程度の成長レベルに達している集団だとも言える。3年生が微減してきているのが気になりだが、やはり入試が意識されてきた上でのプレッシャーもあるのだろうか。

## 6 うちの子は、小さな事でも目標を決めて行動している。

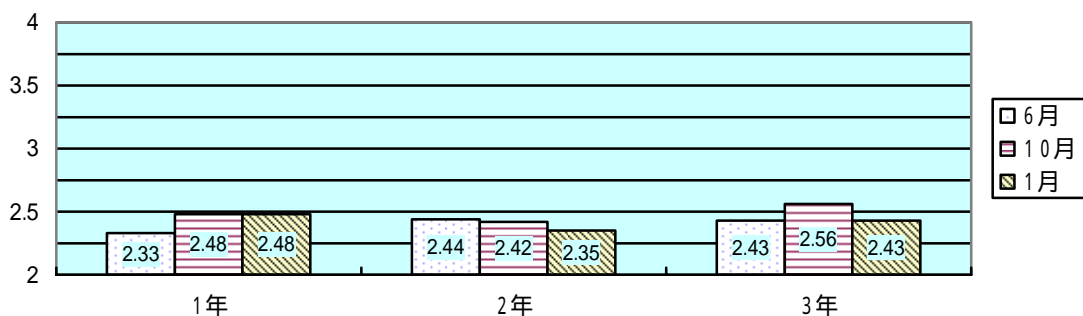
主に、中学2年生「自己契約、自己記録、自己評価、自己賞賛」の4つのステップと、中学3年生「大事なことはじっくり決めよう！」の学習に関する質問。



【考察】 関連項目の該当学年である、二年生・三年生で、事前よりも事後のほうが数値が下がってしまっている。特に、二年生の落ち込みは残念な結果となってしまっている。二年生のプログラムが難しく、「自己契約、自己記録、自己評価、自己賞賛」の4つのステップを使っている学習がわかりにくいという、指導者の授業後の感想との関連も慎重に考えていきたい。

## 7 うちの子は、物事を決めるとき多面的、多角的に考えている。

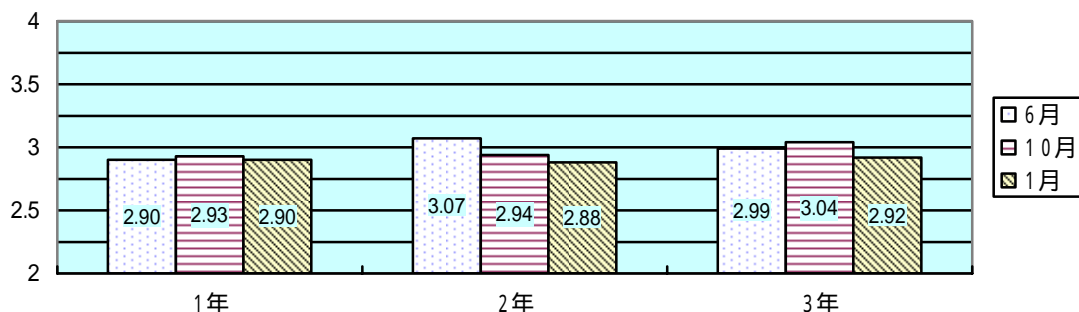
主に、中学1年生「出来事を『事実』と『思い込み・推測』に分けられるようになるろう！」と、中学3年生「じっくり分析して決める方法を知ろう！」の学習に関する質問。



【考察】 一年生、三年生ともピア・サポートの学習の中でも盛り上がりを見せ、授業後の生徒の感想からも「楽しかった」「勉強になった」という言葉が多く聞かれる分野との関連質問である。両学年とも事前から事後にかけて大きな上昇が見られ、ピア・サポート学習に一定の成果の有意性はあると考えられる。一年生は維持傾向も見てとれるが、進路（志望校）選択で最もピア・サポートが活かされるべき1月の三年生が低下してしまったのは、差し迫った現実のもとでは維持が難しいということか。

## 8 うちの子は、相手の気持ちを考えて話をしている。

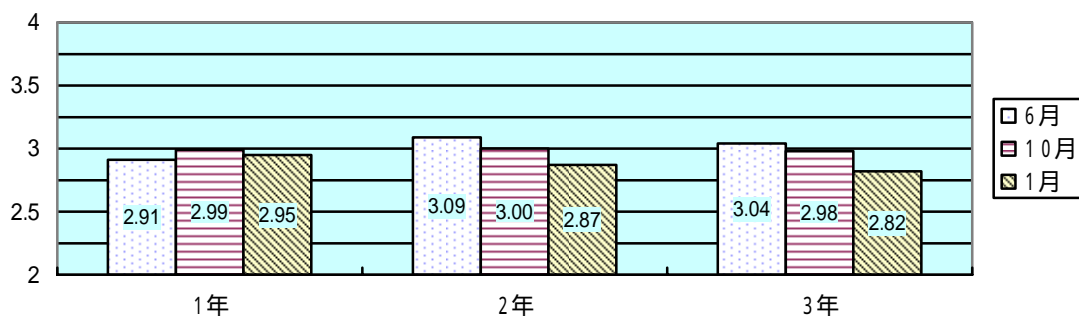
主に、中学1年生「自分の考えていることを冷静に話せるようになるう！」と、中学3年生「自己主張をして、お互いの意思決定を見直そう」の学習に関する質問。



【考察】 有意性があると明確に言えるほどの変化ではないが、関連する学習分野がある一年生と三年生が同じ傾向で変化している。事前と事後で微増した後に、維持できず下降してしまったことが残念である。二年生が下降し続けていることと比較すれば、何とか持ちこたえていることを成果ともとれなくはないが、ピア・サポートの重要学習事項との関連を考えれば、もう少し高い数値を期待したい。

## 9 うちの子は、自分で決めたことに対して責任をもって行動している。

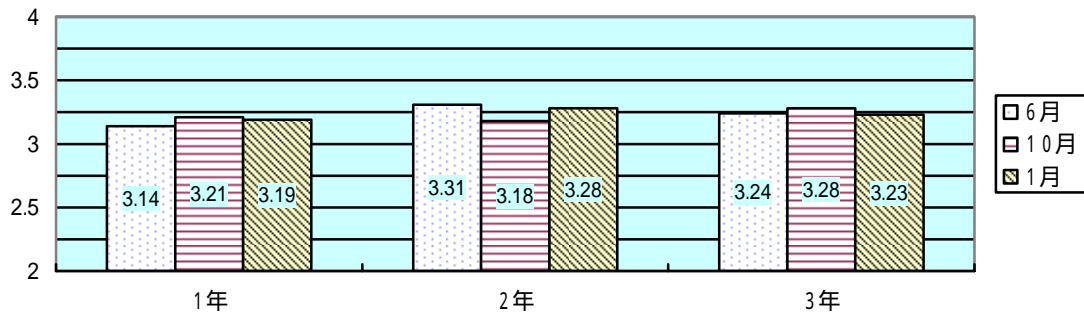
各学年のテーマ中学1年生【クリティカル・シンキング】、中学2年生【セルフ・コントロール】、中学3年生【意思決定】の学習に関する質問。



【考察】 この質問結果についても、ピア・サポートの重要学習事項との関連であることから考えて、残念な結果数値となっている。この調査説明の冒頭でも示したように、調査そのものの信頼性にも疑問は残るが、このグラフが示すようにはっきりと階段状に下がってしまうと、プログラムの内容、指導の方法、般化・維持の取り組み方を再度検証する必要があるだろう。

## 10 うちの子は、自分自身のことを大切にしている。

ピア・サポートの主要目標に関する質問。



【考察】 この3回の調査からの有意性は感じられないが、全体に高い数値を示していることは生徒の実態としては評価できる。日頃の家庭教育の賜か、学校での平常の取り組みが良いのか、いろいろ考えられるが、一つの可能性に、この子どもたちはどの学年の生徒もピア・サポートに取り組んで3年目を迎えていることも考えられる。今年一年の4回のピア・サポートの授業ばかりでなく、複数年の取り組みの成果を調査する方法も構築される必要があるであろう。

### 【アンケート調査全体を通して】

以上の結果からわかるように、このアンケート調査の結果を見る限り、毎日家庭という社会の最も基礎的な集団の中で暮らしている保護者の目には、子どもたちは総合的には良好な生活を送っていると映っているようだ。それがピア・サポートの学習による成果とはこの結果からは明確には言えないが、さまざまな評価方法を検討し、今後も模索し続けていきたいと思う。



選択肢をたくさん出して考える

3年第2セッションの一場面

自由に意見は発表し合う

相手の話に相づちをうつ

個人レベルでの学習から小集団での学習へ



## 学習後の感想記入より

### 【生徒の感想：1年】

- ・ぼくは、いつも思い込みや推測で動いていたのですが、今回の授業でもう少し丁寧に考えれば友だちともっと仲良くできると思いました。(1年：第1セッション)
- ・事実と思い込み・推測に分けることは、どちらに入れていいのか迷ったり、事実だと思ったものが思い込み・推測だったりして難しかった。しかし、たくさん練習して、また普段の生活でも使っていて、使いこなせるようにしていきたい。そして、トラブルが起こる原因を少なくしていきたい、問題が発生しないようにしたい。(1年：第2セッション)



大山口中ではピア・サポート以外でも  
コの字隊形で授業が行われています

・場面に合わせて事実と思い込み・推測に分けて考えるのは難しかったけど、グループで考えたら何個かアイデアが出てきて良かった。特に、思い込み・推測の悪い思い込みがたくさん出てきて、良い方の思い込みは1つしかなかったからビックリした。(1年：第3セッション)

・6年生でやったことを思い出せて良かったです。ライオンやヤギのような感じではなく、フクロウで聞いていきたいと思います。モヤモヤな気分を吹っ飛ばす一番の方法が聞くことなので、どんどん使っ

ていきたいと思います。最後のピアで楽しくできて良かったです。今までのことを日々使っていきたいです。(1年：第4セッション) 切切切切切

### 【生徒の感想：2年】

- ・部活から帰って来て家で宿題もしないで、ソファで眠くなってしまったことが何回もあった。今後はそれに耐えようと思った。(2年：第1セッション)
- ・あっ、これはいいな。と思った。今まで自己契約みたいなもの(目標)は何となく決めていたけど、記録をとったり、ご褒美をあげたりすることは思いつかなかったの、あまりうまくいっていなかった。だから、本当に「いいな」と思った。(2年：第2セッション)
- ・今日学んだことを使って、自分にあった目標を立てて、これからの生活に役立てていきたい。テスト、新人戦に向けてセルフ・コントロールをしっかり行いたいと思った(2年：第3セッション)
- ・セルフ・コントロールのできる集団とできない集団とでは、全く違うと思った。日々の生活にはたくさんの誘惑があり、大変だけど誘惑に負けぬようがんばりたい。今後の授業で、わかったことを活かしていきたい。(2年：第4セッション)

### 【生徒の感想：3年】

・私は決めるときは、人に合わせたり任せたりすることが多いので、大切なことは後で後悔したくないので、じっくり分析して考えられるように、「じっくり」ということを意識して物事を決めていけたらいいと思った。（3年：第1セッション）



じっくり考えて決めます

・何かを決める時には、この6つのステップを使って、いろいろな方向から見て決める方がいいと思った。高校決めでも、これは使えるな。他にも、使える場面があったらどんどん使っていきたい。

（3年：第2セッション）

・たくさん選択肢を決める事で、自分が本当に選びたいものになるんだなあ~と思った。（3年：第3セッション）

・他人の意見を聞いて、自分の考えをあらためて考え直すことの大切さがわかった。

ピア・サポート楽しかった！今まで習ったことを生活に活かしていきたいと思いました。

（3年：第4セッション）

### 【教師の感想】

- ・子どもたちの日常の会話の中に「クリティカル・シンキング」「ストップ・アンド・シンク」という言葉が聞かれた。
- ・何か一つのものに取り組みもうとする空気が全校的に高まったように感じる。
- ・決め方のステップを用いて、視点を変えることをしていた。
- ・聞いて、考え、発言するという3つのバランスが良くなった。
- ・ピアの授業を通じて得た知識・言葉が身についた生徒がいます。「上手いかなかったのは、選択肢が少なかったからだ」などという言葉が普通の生活で聞くことができました。
- ・自分の行動パターンを多少は分析できるようになったと思う。理屈としては、しっかり理解できたと思う。それを行動につなげられるかは個人によるが、増えたとは思う。
- ・大きな変化は見られませんでした。一部の生徒は言葉・行動の一つ一つに注意して生活しているように思えます。ピアのことを含めて話をすると理解できる生徒もいました。
- ・進路決定の際に、優先順位は何かを考えていた。いろいろな選択肢を用意していた。大事なことから、じっくり考えて決めると、言葉に出して言っていた生徒がいた。
- ・教室で、フクロウ役、ヤギ役、ライオン役、キツネ役を決めて、ロールプレイをして遊んでいる生徒がいた。
- ・教科の授業では挙手や発言ができない生徒も、ピアの授業では生き生きと活動していた。
- ・けんかの原因を探る中で、「思い込み・推測」と「事実」を分けて考えていた。
- ・いじめられて不登校だった生徒が他校から転入してきたが、本プログラムを経験して、新たな自分への気づきがあり、不登校は解消した。

## 【保護者の感想】

- ・嫌なことがあっても感情的にならず、冷静に受け止めている所はピア・サポートの成果だと思います。ただ、未だに上級生から「死ね」「ウザイ」「キモイ」という言葉を日常的に言われているところは、非常に残念です。ピアの事例も具体的な場面想定が必要ではないでしょうか？  
(1年)
- ・目標を決めて、それに向かって努力している姿が強く感じられます。少し前までの友だちとの関係で悩んでいた様子がなくなったようで、安心しております。(1年)
- ・学校であった嫌なことも、楽しいことも、いっぱい話してくれるので、学校のようにとてもよく分かります。(1年)
- ・いい事があっても、悪い事があっても、学校での事をたくさん話してくれます。(1年)
- ・中学生になり、将来の夢を持てるようになりました。(1年)
- ・部活動等を通じて、さらに目標を決めて続けて努力していく力が増したと思います。(1年)
- ・2年生になった頃から自分でいるんな事を考え、決めた事を実行するようになったと思います。  
(2年)



目と目を合わせて話をします

- ・親の言うことを多少理解して聞こうとする姿勢を、最近感じるようになりました。(2年)
- ・自分がやらなければいけない事に対する責任感が強くなった。  
(2年)
- ・誰とでもハキハキと話せるようになりました。(2年)
- ・少しの時間ではあるが、毎日家庭学習を続けている。(2年)

- ・2年生になり、先輩としての責任感をもって部活動に取り組んでいます。(2年)
- ・家庭学習の習慣が定着してきたのが良いと思います。時間は長くはないけれど。(2年)
- ・何事に対しても一生懸命頑張るようになった。(2年)
- ・何か頑張った事があったら、自分へのご褒美をするのも必要と言って、おかしやデザートを買っています。ピア・サポートで習ったと言っていました。(3年)
- ・3年生になってからは、注意したことに対して素直に聞き、謝ったり、反省したりするようになったところが嬉しく思う。(3年)
- ・自立することに、少し目覚めたようです。(3年)

## 【外部関係者】

- ・生徒たちの元気のよいあいさつに迎えられて授業参観できました。普段から討議の仕方、発表の仕方など、指導されていると感じました。(中学教員)
- ・積極的に発言している生徒が多く見られました。小学生の時からピア・サポートを継続して行っているということを生徒から聞きました。(中学教員)
- ・生徒が大変意欲的に参加していました。あいさつもよく、ほとんどの生徒が発表し、少人数での話し合いも積極的でした。(中学教員)
- ・生徒たちが一生懸命、パターンごとの意見を出して考えられていた。(中学教員)
- ・ピア・サポートのような人間関係を築く上で重要なことは、発達段階に合わせて継続的に指導していく必要があるので、こうした台本があると継続する上ではやりやすくなると思いました。(高校教員)
- ・授業展開が速いので驚きました。2年生より1年生が意見を述べ、活動的だと感じました。ライオンが悪であるような感じで終わっているような気がしますが、後日、サポートがあるのでしょうか。(高校教員)
- ・グループ学習、発表がとてもスムーズで驚きました。積極的に良い意見がたくさん出て感心しました。(中学教員)
- ・とてもわかりやすかったです。子どもたちが我慢のできる子になれると良いと思います。(主任児童委員)
- ・2年生の授業を参観させてもらいましたが、生徒たちがピア・サポートについて関心をもって様子がわかったり、質問に答える姿を見ていると、よく鍛えられていることがわかり、大変参考になりました。廊下や教室の掲示物もとても参考になりました。(中学教員)
- ・少人数で話し合う経験が、よく積み重ねられていると思いました。どの学年も生徒たちの表情がよく、意見を素直に出し合っていて素晴らしいです。よく聞くことができ、よく考えている姿が素晴らしいです。挨拶が明るく、気持ち良かったです。(中学教員)
- ・教員の問いかけに対して、必ず答える子どもがいる。とても難しい復習に対して一生懸命ファイルを開いて調べる競争があるのには驚きです。(高校教員)
- ・大変良い取り組みだと思う。将来見聞きすることを正しく理解し行動することができる大人になることを期待したい。(人権擁護委員)
- ・まとめの感想文を3行程度書く子どもが多く、優れた授業になっていると思う。(民生委員)
- ・自分たちの時代にはほとんどなかった指導法による、よく考える教育は素晴らしいと思います。生徒たちもまじめに取り組んでいる態度は非常に好感が持てます。このように論理的に考える訓練を積み重ねる教育は、今後の人間形成において非常に重要と考えます。(民生委員)
- ・1年生の生徒たちがとても意欲的に楽しそうに学習している姿を拝見し安心しました。小学校からの系統性も垣間見られ、9年間の計画が少し見えてきました。(小学校教員)
- ・子どもたちの人間関係がとてもよいと感じました。(教育委員会)

## ピア・サポートと学校行事等との関連

般化・維持を強めるための、ピア・サポートと学校行事等との関連について、次のような年間計画を作成した。ピア・サポートの学習により身につけたスキルを、学級での話し合い活動、学習計画づくり、また学校行事の中で関連が考えられるものについてまとめたものである。

月	学校行事・特別活動	1年ピア	2年ピア	3年ピア	
一 学 期	4	仲間づくり(1, 2)	1年般維		
		学年のスタート(3)		2年般維	
	5		1年第1セッション	2年第1セッション 3年第1セッション	
		職業体験に向けて(2)	2年第2セッション		
	6	期末テストの対策(全)		2年般維 3年第2セッション	
			1年第2セッション		
		職業体験を終えて(2)	1年般維・2年般維		
		上級学校について調べよう(3)		3年般維	
		夏休みの過ごし方(全)	2年般維	2年般維	
		中間テストの対策(全)		2年般維	
二 学 期	9	合唱祭に向けて(全)	2年般維	2年般維・3年般維	
	10		1年第3セッション 1年第4セッション	2年第3セッション 2年第4セッション 3年第3セッション 3年第4セッション	
		職業について調べよう(1)	1年般維		
	11	期末テストの対策(全)		2年般維 3年般維	
		上級学校について調べよう(3)		3年般維	
	12	冬休みの過ごし方(全)		2年般維 2年般維	
	三 学 期	1	ホワイトスクールを振り返る(1)	1年般維	
		2	福祉・ボランティア体験(3)		3年般維
			期末テストの対策(全)		2年般維 2年般維
		3	中堅学年に向けて(1)	1年般維	
		最高学年に向けて(2)		2年般維	

各1時間の授業での指導細案については、年間の活動の進行に伴い作成中である。各学年の般化・維持のプログラムの基本的な考え方は次のとおりである。

### 1年の般化・維持プログラム

友人関係や学級内等の人間関係を考えたり、振り返る場合に、「事実」に基づいた感情、あるいは感情から引き起こされた行動なのか、「思い込み・推測」からの感情・行動なのかを見つめ直すような場面が考えられる取り組みに対して実施する。

### 2年の般化・維持プログラム

自己契約・自己記録・自己評価・自己賞賛のステップを用いる取り組みに対して実施する。

### 3年の般化・維持プログラム

選択肢をあげて、じっくり考えて決める過程が考えられる取り組みに対して実施する。

指導者の個性を発揮した授業、 補助者の積極的な関わり

指導台本から離れ、指導者の独自性を発揮した授業展開、また、補助者の授業展開への積極的な関わりという面から考えられたプログラムを次に一つ紹介する。

# 1年生第4セッション 事実かな？確かめよう。

復習（5分）

- ・ピア サポートという言葉の意味
- ・2つのポイント「自分を大切に」「周りの人を大切にする」
- ・1年生の目標「クリティカルシンキングができるようになる」
- ・前回の復習 「物事をよく調べて、丁寧に考えて、判断する」方法を学んできた  
クリティカルシンキング をするときの心構えは？ ストップ&シンク  
クリティカルシンキングにはどんなステップがあったか？  
模造紙 行動する前に自分がどういう感情が考える。  
その感情は どんな出来事によって起こったか考える。  
その出来事を 「事実」と「思いこみ・推測」に分ける。  
\*うまく区別できないことや、納得できないことが実はたくさんある。

相手に直接たずねて解消することができる。・・・今日の学習

今日のテーマ・目標・学習の流れ（2分）

- ・テーマ「事実かな？確かめてみよう。」
- ・目標 「自分の考えていることを冷静に相手に話せるようになる！」  
復習 今日の学習の流れ 活動「勇気を出して確かめよう！」  
相手に直接たずねることによって解決するという行動を学習する

まとめ 振り返り用紙の記入

活動（34分）

- 2分 プリントA「勇気を出して確かめよう！」配布 組と氏名記入  
あらすじを黙読

主人公は「土曜日に都合が悪くなったと言っていたCさんと、同じクラスのD子さんが街にいたことは事実。Cさんは、私よりD子さんと遊びたかったのかな？それともD子さんと偶然会っただけなのかな？」・・・思いこみ推測が事実かどうか

Cさんに直接確かめてみることにしました。

- モデル提示 メイン授業者・・・Cさん役  
補助者・・・セリフを言う人（演技も）

- |    |  |
|----|--|
| 2分 | 1つ目 「Cさん、昨日さ・・・。いや、やっぱりいいや。」猫背 相手を見ず、小声、暗く<br>何て言ってるのか分からないくらい                                     |
|    | 2つ目 「Cさん！ ひどいじゃん！！」身を乗り出し、大声で、怒鳴る、早口、迫力がある   |
|    | 3つ目 「ねえ、Cさん。昨日、もしかしてD子さんと遊んでいた？たまたま街で見かけたんだ<br>どうかな？」相手を見て、ちょうど良い声の大きさと速さで、少しとぼけた表情で<br>(あくまでも自然に) |
|    | 4つ目 「Cさん。わたしより、D子さんが好きなんだよね？ま、いいけどさ」嫌みっぽく  |

Q この4つのうちで言われて一番いやな気持ちにならないのはどれ？  
(言った人はスッキリしてるか)

3つ目・・・フクロウさんの行動パターンです。

2分 プリントAの問題1の活動 フクロウさんは です。他の3つはどれですか？時間は30秒。

1分 全体シェアリング 答え合わせ ライオン キツネ ヤギ

2分 上手な自己主張の3本柱 小6でやった「上手な自己主張」の上手なって何？

「自分の発言への責任と、相手への思いやりを込めた自己主張」  
フクロウのセリフ 「ねえ、Cさん。昨日、もしかしてD子さんと遊んでいた？たまたま街で見かけたんだ。どうかな？」

3分 6年生の時にやった 上手な自己主張の仕方って覚えてるかな？・・・模造紙  
「人に事実を確かめるときのステップ」



**第1の柱・・・言葉**

ステップ1 「自分の主張の**結論**を言う」 自分の一番に言いたいこと  
確かめたいこと

コツ「～かな？」と？マークをつけて疑問形で言って、  
決めつけるような断定を避けるといいんだよ。  
(相手にいやな思いをさせなくてすむ)

ステップ2 「結論の理由を言う」

コツ「見たことなどの**事実**」を言う・・・相手も誤解せずに聞いて  
理解してくれる

ステップ3 「相手にも意見を聞く」・・・相手にも発言のチャンス

コツ「どうかな？」と相手にも発言するチャンスを与える。

- 1分 **第2の柱・・・声** ちょうど良い声の大きさと速さ
- 第3の柱・・・体** 相手に顔と体を向ける  
話の内容に合わせた表情をする

5分 プリントAの裏 問題2

勇気を出して確かめよう！」問題2 補助者が問題を読む 運動会の様子 30秒  
上手な自己主張の仕方を使ってステップ1、2、3のセリフを線の上に書く。時間は4分  
お助けカード

10分 小グループでの自己主張と評価 チェックシート プリントB配布  
今使ったセリフを代わる代わる発表していってお互いに評価し合う。

先生達でやってみます。ジャスピの例で  
\*話し手は呼びかける。聞き手は呼ばれたら返事をしたり相づちを打つ。  
役割ブラカード

補助者 「ねえ、Cさん。」

主授業者 「なあに？」

補助者 「昨日、もしかしてD子さんと遊んでいた？たまたま街で見かけたんだ。どう  
かな？」

主授業者 「えーっ！？違うよ。だって昨日は家族で横浜のおじいちゃん家に行つてて  
ジャスピに行つてないもの。」など

じゃんけんをして最初に話し手を決めます。その人の左隣の人が聞き手で、その左隣が観察者です。  
4人のところは観察者が2人です。上手な自己主張の仕方をうまく使ってやってみてください。

1人終わったら時計回りに役割を交代していってください。全員が話し手、聞き手、観察者を  
交代でやって、上手な自己主張の練習をしてみてください。チェックシートは観察者につけてもら  
います。

4分 全体シェアリング 観察したこと 実演したことを発表してもらいます。実演でも可  
\*自己主張の言葉は何と言ったか \*難しかったところは何か がつかなかったのは？  
\*こんな風に丁寧に言えればどんないいことがあるか

2分 活動のまとめ 相手に事実を確認するときは、こちらの考えが間違っているかもしれないこ  
とを前提にして考えないと相手にとっても嫌な思いをさせてしまうおそれがあり  
ます。

上手な自己主張のやり方は学べたよね？自分の主張をしっかり言いつつ、  
相手への思いやりも示すことは、  
勇気のいることだね？

やり方は学べたので、後は勇気を持ってやるかやらないかは自分次第ですよ。

まとめ 5分 まとめプリント配布 答え 疑問 事実 大きさ 顔 表  
振り返り 4分



指導者と補助者がT1、T2を入れ替わる



2人の掛け合いが大切

## 校外機関との連携（研修・他校との連携）

平成17年度

- 3 / 2 2 人間関係づくり推進事業プログラム開発校事前打ち合わせ（大山口小）

平成18年度

- 1 0 / 3 1 豊かな人間関係づくり推進事業研究推進委員会（大山口中）
- 1 1 / 2 2 豊かな人間関係づくりプログラム研修会（千葉県総合教育センター）
- 1 2 / 5 豊かな人間関係づくりプログラム研修会（千葉県総合教育センター）
- 1 2 / 7 プログラム研修会（白井三小）
- 1 2 / 8 プログラム研修会（大山口小）
- 1 / 2 2 館山市教務主任研修会来校
- 1 / 2 3 野田市立第二中学校校内研修会講師派遣
- 1 / 2 7 広島県廿日市中学校来校
- 2 / 1 豊かな人間関係づくり授業視察（大山口小）
- 2 / 2 0 担当者会議（白井市役所）  
印西市立船穂中学校校内研修会講師派遣
- 3 / 1 4 山武市立蓮沼中学校校内研修会講師派遣
- 3 / 1 9 心の教育～豊かな人間関係づくり推進事業～発表会（菜の花プラザ）

平成19年度

- 5 / 8 担当者会議（白井市役所）
- 5 / 1 0 本埜村立滝野中学校校内研修会講師派遣
- 5 / 1 6 豊かな人間関係づくり連絡協議会（千葉女子高校）
- 6 / 1 2 我孫子市教務主任研修会来校
- 6 / 1 3 八千代市生徒指導主事・研究主任研修会来校
- 6 / 1 9 印西市立小林中学校校内研修会講師派遣
- 6 / 2 6 浦安市立美浜中学校校内研修会講師派遣
- 8 / 1 市川市立第七中学校校内研修会講師派遣
- 8 / 1 0 木更津市立第一中学校校内研修会講師派遣
- 8 / 2 2 夷隅教育研究集会講師派遣
- 8 / 2 4 印旛地区教育研究集会講師派遣
- 8 / 2 7 野田市立福田中学校校内研修会講師派遣
- 1 0 / 2 白井市初任者授業力アップ実践研修会来校
- 1 1 / 9 印旛郡市第三部会道徳研究部研修会講師派遣（本埜ふれあいプラザ）

平成20年度

- 6 / 13 ピア・サポート実践発表会視察（白井三小）
- 6 / 17 豊かな人間関係づくり推進事業研究推進校連絡協議会（千葉県総合教育センター）
- 8 / 19 佐倉市人権教育研修会講師派遣（佐倉市中央公民館）
- 9 / 3 豊かな人間関係づくり実践プログラム研修会（千葉県総合教育センター）
- 9 / 30 鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校ピア・サポート報告会視察
- 10 / 10 船橋市新任校長研修会来校
- 10 / 16 白井市初任者研修会来校
- 11 / 17 石川県金沢市立高岡中学校来校
- 11 / 20 ピア・サポート実践発表会視察（白井三小）
- 12 / 3 実践報告会打ち合わせ会議（大山口小）
- 1 / 16 実践報告会打ち合わせ会議（大山口中）
- 1 / 28 ピア・サポート・プログラム実践報告会（白井市文化ホール）
- 2 / 18 愛知県東海市立平洲中学校来校

## 成果と課題

### 研究の成果

#### 生徒の変容

現在の大山口中の生徒は、3年生から1年生まですべて3年間ピア・サポートを学んできたことになる。評価方法がまだ完成されていないため、明確なデータとして生徒の変容を証明することは難しい。しかし、教育とは元来、すべてが数値化できるものではない。すでに述べてきたように、アンケートの結果から生徒の変容を浮き彫りにさせることは現時点では十分にはできなかったが、自由記述の中に随所に見られるように、指導する立場の教員の目にも、日々寝起きを共にする保護者の目にも、授業という一瞬の活動を注視する参観者の目にも、そして何よりも、子どもたち自身の心の中に「変容した姿」は、はっきりとあらわれている。



具体的な変容の姿は、前述の感想にまかせることとするが、大山口中職員としては、「とにかく生徒を見てください。自信をもって変容した姿をお見せできます。」と言える。もちろん、その変容（成長）がピア・サポートだけの成果とは言えないかもしれないが、ピア・サポートの取り組みを含め、普段の授業や日常の生徒指導、充実した学校行事等が有機的に絡み合っ、今日の大山中の生徒たちを育てたと考えたい。

ピア・サポートの基本は人間関係づくり

## 教師の変化

3年間の研究を通じて、教師サイドにも好ましい変容が見られた。紙面の関係で大きくは取り上げられないが、以下のようにまとめた。

### 教科を越えた研修・研究体制の構築

中学校の場合、教科ごとの研修はあっても、教科の枠を越えた研修の機会は少ない。ピア・サポートは学年シフトで動くことが多く、新たな研修のスタイルができた。

### 授業を相互に参観し合う習慣

公開授業による参観ではなく、模擬授業やTTによる指導というピア・サポート特有の授業形態が、教師個人個人の壁を取り除いていった。

### 他教科の授業、掲示物、配布物への波及効果

ピア・サポートでの教材作成のスキルが、他の教科での教材・資料づくりや、学級等での掲示物、また学級通信等にも活かされている。

### 会話の中に見られるピア

教師と生徒の間ではもちろん、職員室での教職員の会話の中でも、ピア・サポートの用語が自然に使われている。

## 課題

多くの成果を残したピア・サポートの研究であったが、次年度以降にいくつかの課題を残したことも事実である。



常に研鑽に努めることが大切

### 評価方法の確立

平成20年度は、評価方法についての研究を一つの柱としたが、満足のいく結果を得ることはできなかった。

### 般化・維持活動の一層の工夫

チャレンジプリントの有効かつ着実な利用、行事・特別活動とのリンク、掲示物の整備とこれまでも工夫をしてきたが、それらを教育課程上にしっかり位置づける必要がある。

## 職員の慣れ

今年度は、学年スタッフが全員そろわない中での模擬授業も見られ、馴れ合いになってしまう場面があったのも事実である。毎年、人事異動があり職員のピア・サポートに対する意識にも温度差が出てきている。職員の意識面での般化・維持も大切になってきている。

## 今後の取り組み

### 般化・維持活動の一層の工夫と定着化

各学年4回のセッションの指導プログラムだけでは、般化・維持を十分に行うことはできない。各学校において独自に般化・維持プログラムを工夫しなければならないだろう。大山口中では、行事・特別活動との関連において、各クラスで共通で指導ができる計画を完成させなければならない。

### 評価方法の確立

アンケート調査を実施する場合には、質問項目の再検討が必要である。生徒の日常の生活の中からチェック・リストを使っての評価も考えていきたい。

### 先進校としての意識を持ち続ける

県内各学校のピア・サポートへの取り組みも、まだスタートしたばかり。研究実践の先進校として大山口中が果たさなければならない役割は、今後も大きい。職員スタッフが入れ替わっても、県下の研究を背負っているという高い意識を持ち続けて、取り組む覚悟をしなければならない。

